

ヤマシンフィルタ株式会社

2017年3月期第2四半期 決算説明会

~中国市場の潮目が変わった。
転換期を見据え、筋肉質の経営に生まれ変わる~

2016年11月24日
(証券コード6240)

- I. 2017年3月期第2四半期 実績 P. 6**
- II. 2017年3月期 通期計画 P.20**
- III. 事業ポートフォリオの拡大 P.35**

15.3期

東証二部

16.3期

東証一部

17.3期

ING19*

トピックス

※時価総額300億円を目指した事業戦略 “Into the Next Generation 19”

環境分析

建機市場の低迷を受けつつも、
中国市場の底打ちを実感

次世代製品の開発と
建機以外での新分野開拓を準備

自社取り組み

守りの業務改革

攻めの業務改革

建機市場を取り巻く外部環境の総括

- 中国市場回復の兆しが見えてきた。主要先進国のインフラ投資も概ね堅調

	新興国	先進国
ライン品	<ul style="list-style-type: none">■ 中国では公共投資の下支えにより需要は回復傾向■ 東南アジアは、鉱山機械投資が依然低迷なものの、インフラ投資は堅調	<ul style="list-style-type: none">■ 日本は排ガス規制駆け込み需要の反動が続く■ 北米では住宅着工戸数が堅調に推移■ 欧州の建機需要は、主要国において堅調に推移
補給品	<ul style="list-style-type: none">■ 中国における稼働時間は、底打ち感が鮮明に	<ul style="list-style-type: none">■ 日本での稼働時間は、各種投資の一服から軟調に推移■ 北米ではインフラ投資により、回復の兆しを見せる

当社決算の特徴

セグメント と KPI

- 建機用フィルタは「ライン品」と「補給品」に分かれる
- ライン品は新車搭載用のフィルタ
 - ▶ 重要指標は、「新車需要台数」
- 補給品は交換部品用のフィルタ
 - ▶ 重要指標は、「稼働台数」×「稼働時間」

販売形態

- 建機用フィルタの売上は、建機メーカーへの直接販売(100%)
エンドユーザーへの直販は基本的に行っていない

地域別動向

- 地域別売上高は参考値。当社請求書送付先基準のため、
実際の地域別市場動向と異なる

PAC16 (Promptly Activated Cost reduction 2016)

- 売上の低迷を背景とした、全社的なコスト削減プロジェクト

販売形態 地域別動向 コスト削減

I . 2017年3月第2四半期 実績

~中国市場回復の兆しが見えてきた~

2017年3月期 第2四半期(7-9月)

- 為替の変動が減収増益要因にはたらく
- 原価低減努力(PAC16)が奏功し、大幅増益

		16.3期 7-9月	17.3期 7-9月	前年同期比増減	
		実績	実績	金額	%
(単位:百万円)					
売上高		2,569	2,436	△ 132	△5.2%
営業利益		82	243	161	194.2%
当期純利益		6	113	106	1561.5%
為替 レート	USD	122.2	102.4	△ 19.8	△ 16.2%
	EUR	136.0	114.3	△ 21.7	△ 16.0%

※実績為替レートは期中平均の値です。

製品別売上高(第2四半期 7-9月)

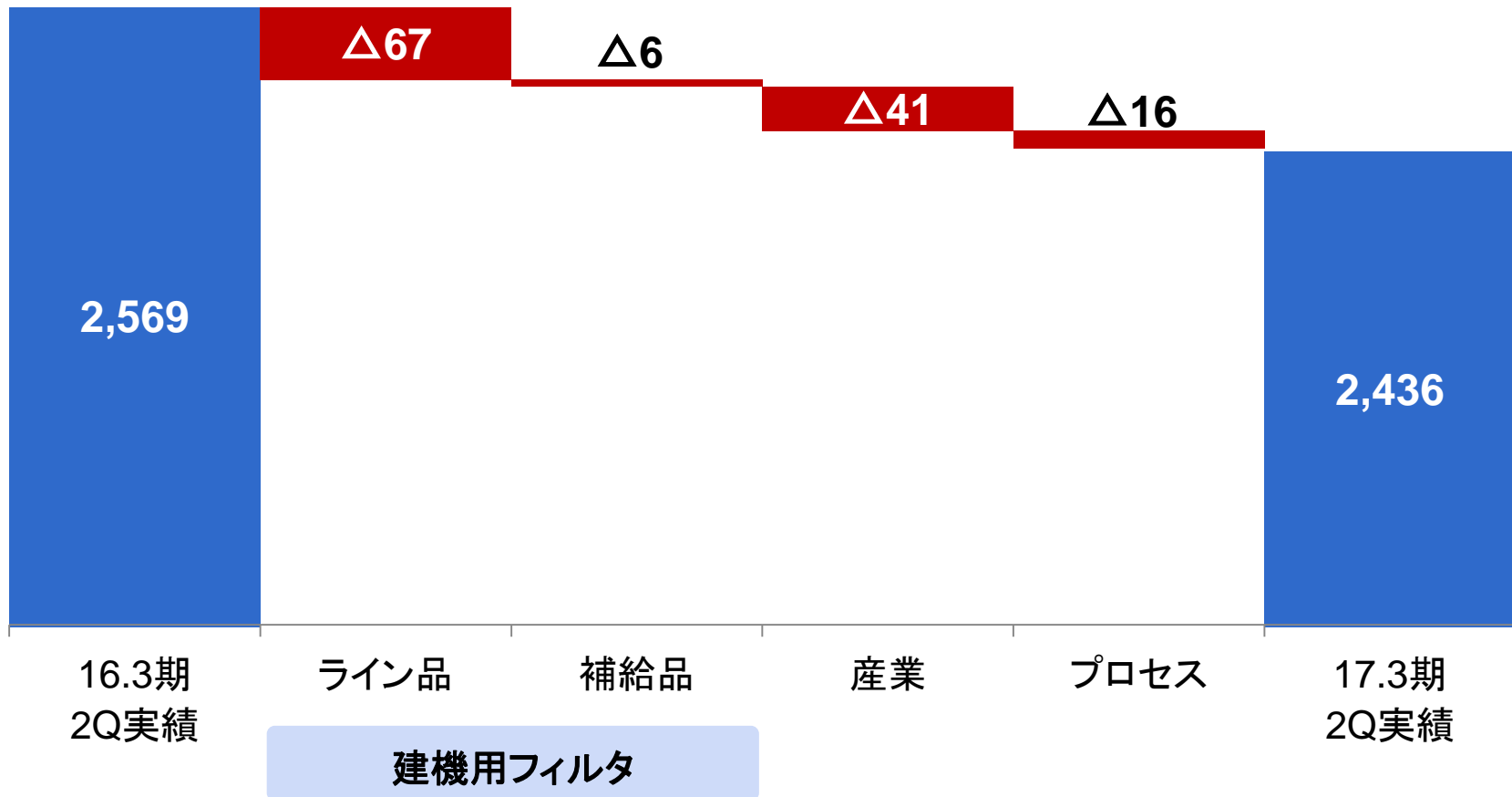
- ライン品は中国市場の回復の兆しを受け、需要は下げ止まり
- 補給品は前年度下期の在庫圧縮の反動を受け、受注回復傾向

	16.3期 7-9月	17.3期 7-9月	前年同期比増減	
	実績	実績	金額	%
(単位:百万円)				
建機用フィルタ	2,197	2,122	△ 74	△3.4%
ライン品	906	838	△ 67	△7.5%
補給品	1,290	1,284	△ 6	△0.5%
産業用フィルタ	152	111	△ 41	△27.1%
プロセス用フィルタ	219	202	△ 16	△7.7%
売上高合計	2,569	2,436	△ 132	△5.2%

売上高の増減要因(第2四半期 7-9月)

- ライン品は中国市場の回復の兆しを受け、需要は下げ止まり
- 補給品は前年度下期の在庫圧縮の反動を受け、受注回復傾向

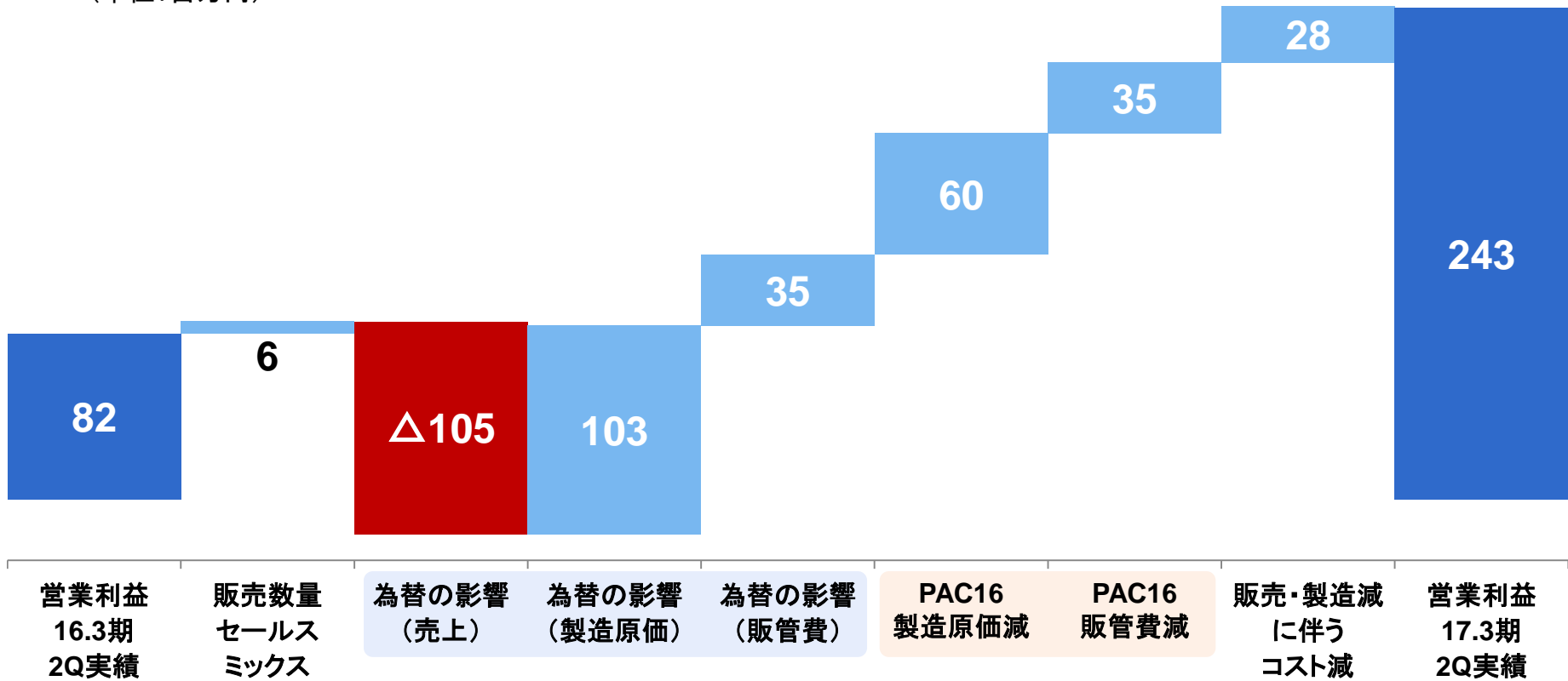
(単位:百万円)



営業利益 増減要因(第2四半期 7-9月)

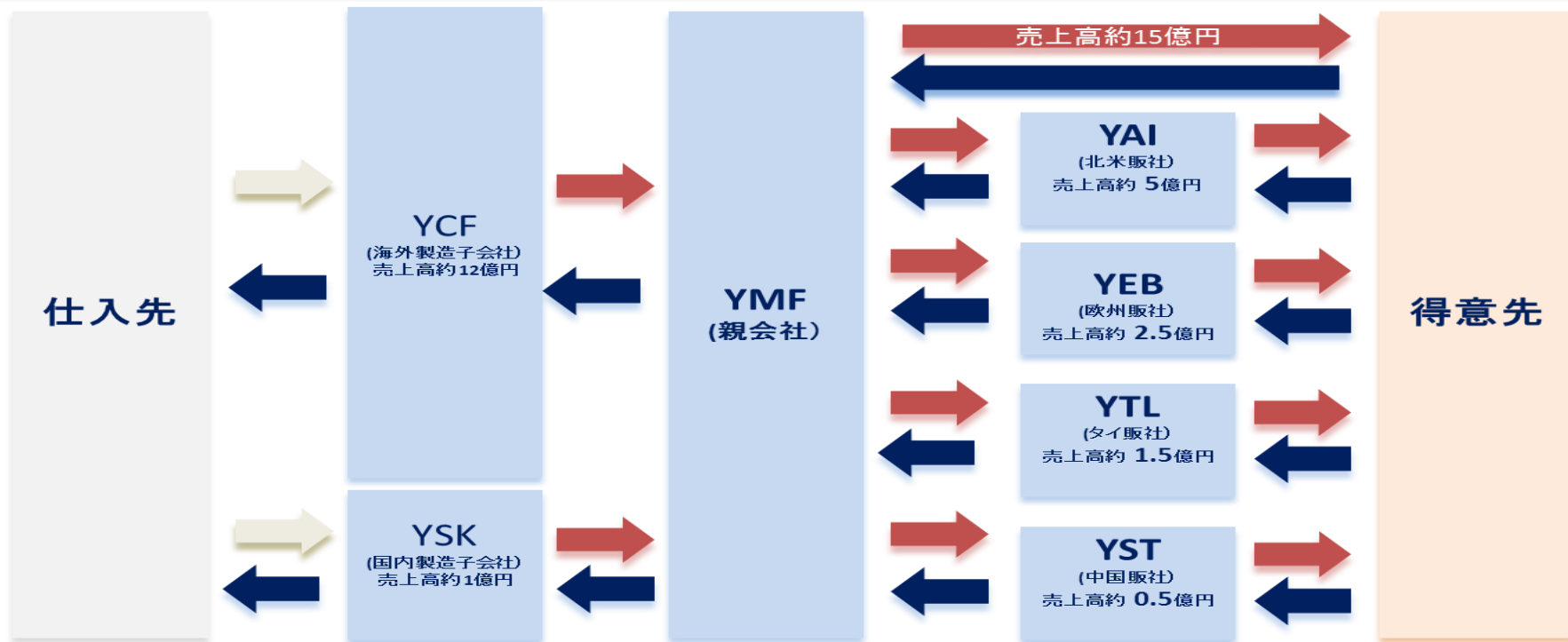
- 為替要因(円高)による調達コスト削減効果で、減収幅を減殺
- PAC16の効果により、筋肉質な利益体質を形成

(単位:百万円)



各通貨 為替変動(第2四半期 7-9月)

- 親会社(YMF)へ為替リスクを集中し子会社での為替リスク低減
- 為替マリーによるネット為替ポジション低減



➤ 通貨別債務支払比率

- JPY 73%
- USD 20%
- PHP 5%
- Others 2%

➤ 通貨別債権回収比率

- JPY 78%
- USD 18%
- EURO 3%
- Others 1%

第2四半期(7-9月)の為替マリーの状況

- 為替が1円円高になった場合の営業利益影響額は約1.3百万円増益
- 為替感応度は約0.5%

(unit:Million)

Currency	第二四半期(7月~9月)実績				円換算(JPY)	円高ケース(10%)			円安ケース(10%)		
	incoming	Outgoing	Net	平均レート(JPY)		期中平均レート ▲10%(JPY)	円換算(JPY)	影響額(QTD)	期中平均レート +10%(JPY)	円換算(JPY)	影響額(QTD)
JPY	¥3,500.0	¥3,000.0	¥500.0	-	-	-	-	-	-	-	-
USD	\$7.8	\$7.8	\$0.0	¥102.4	¥0.0	¥92.16	¥0.00	¥0.00	¥112.64	¥0.00	¥0.00
EUR	€1.3	€0.9	€0.4	¥114.3	¥45.7	¥102.87	¥41.15	¥4.57	¥125.73	¥50.29	¥-4.57
PHP	0.0	99.6	-99.6	¥2.2	¥-219.1	¥1.98	¥-197.21	¥-21.91	¥2.42	¥-241.03	¥21.91
THB	19.3	6.3	13.0	¥2.9	¥37.7	¥2.61	¥33.93	¥3.77	¥3.19	¥41.47	¥-3.77
Total	-	-	-	-	¥-135.7	-	¥-122.13	¥-13.57	-	¥-149.27	¥13.57

2017年3月期 上期実績(4-9月)

- 為替要因(円高)による調達コスト削減効果で、減収幅を減殺
- PAC16の効果により、筋肉質な利益体質を形成

		16.3期	17.3期	17.3期	前期比増減	
		2Q	2Q	2Q	金額	%
(単位:百万円)		実績	計画	実績		
売上高		5,128	4,298	4,783	△ 344	△6.7%
営業利益		170	142	436	265	155.1%
当期純利益		71	83	273	201	282.0%
為替 レート	USD	118.2	120.0	105.3	△ 12.9	△10.9%
	EUR	135.1	130.0	118.2	△ 16.9	△12.5%

※実績為替レートは期中平均の値です。

製品別売上高 上期実績(4-9月)

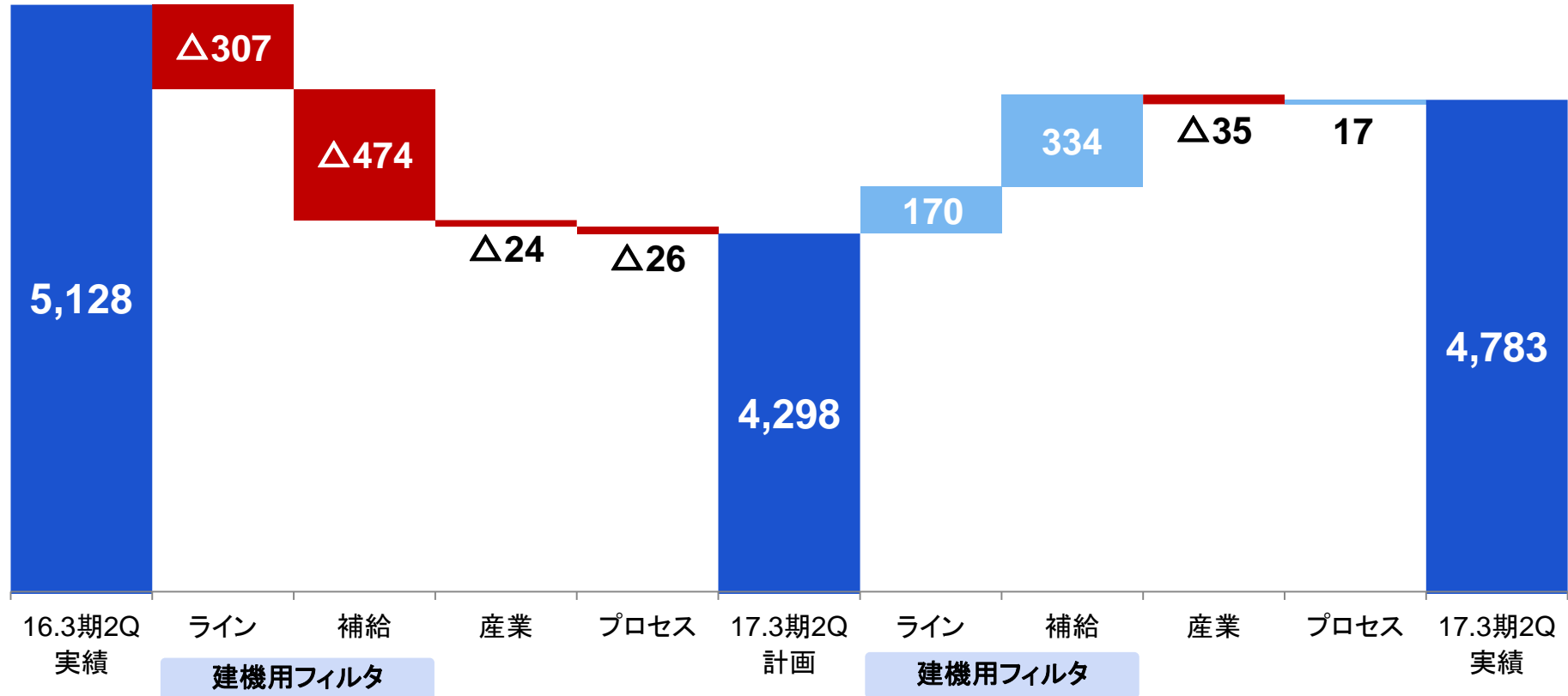
■ 2Q実績では減収となるものの底打ち感が出ている

	16.3期 2Q	17.3期 2Q	17.3期 2Q	前期比増減	
	実績	計画	実績	金額	%
(単位:百万円)					
建機用フィルタ	4,450	3,670	4,174	△ 275	△6.2%
ライン品	1,875	1,568	1,738	△ 136	△7.3%
補給品	2,575	2,101	2,436	△ 139	△5.4%
産業用フィルタ	268	244	208	△ 59	△22.2%
プロセス用フィルタ	408	382	400	△ 8	△2.2%
売上高合計	5,128	4,298	4,783	△ 344	△6.7%

売上高の増減要因(上期 4-9月)

- ライン品は、中国市場での公共工事回復を受けて持ち直し
- 補給品は、在庫品調整の反動により回復

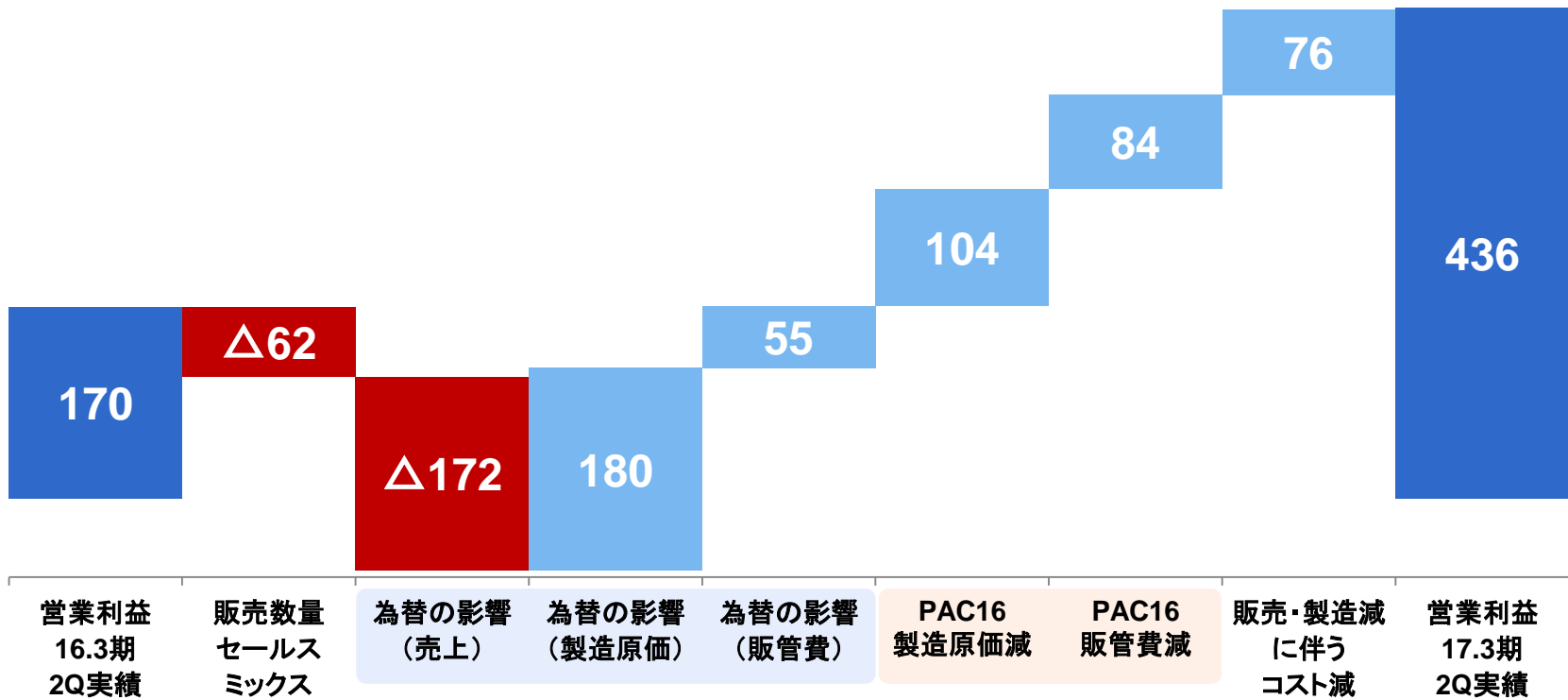
(単位:百万円)



営業利益 増減要因(上期4-9月)

- 為替要因(円高)による調達コスト削減効果で、減収幅を減殺
- PAC16の効果により、筋肉質な利益体質を形成

(単位:百万円)



■ 製造原価、販売管理費ともに全社的なコスト削減プロジェクトを実施中

製造原価の削減



【材料費】

- ・調達/図面設計の効率化
- ・機械設備活用による品質安定
- ・ろ材ロスの削減

【製造経費】

- ・消耗品費や水道光熱費の削減

販売管理費の削減



【経費】

- ・試作品材料コストの見直しによる材料費削減
- ・出張計画の効率化/合理化等

貸借対照表

- 投資その他資産は増加(流動性・安全性の極めて高い有価証券を14億円取得)
- 30億円のコミットメントライン契約も含め、安定した財務基盤を確保

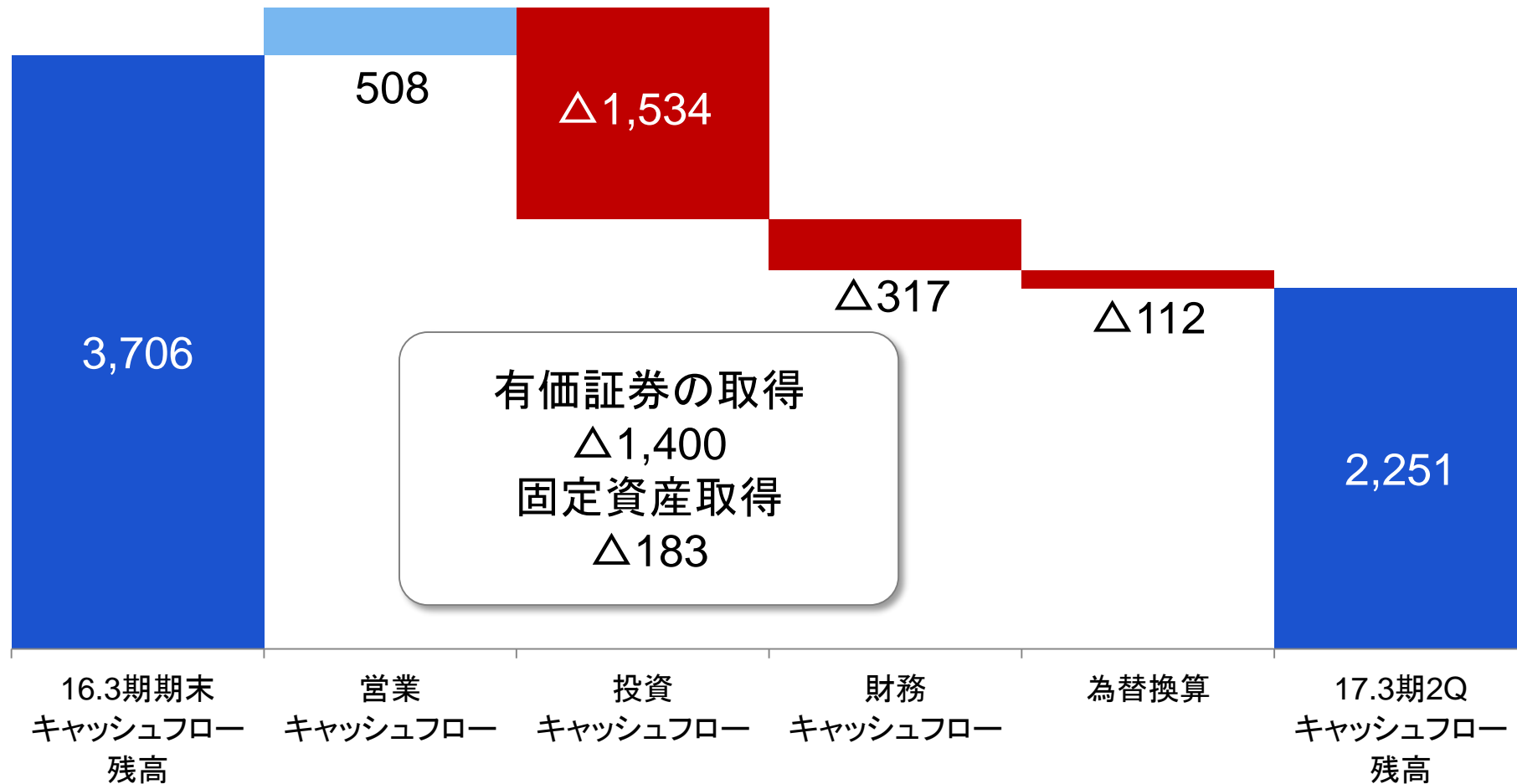
(単位:百万円)	2016/3期 期末	2017/3期 2Q	増減額	増減率		2016/3期 期末	2017/3期 2Q	増減額	増減率
流動資産	7,604	6,184	△ 1,419	△23.0%	流動負債	1,704	1,974	270	13.7%
現金・預金	3,806	2,251	△ 1,554	△69.1%	支払手形及び買掛金	796	917	121	13.2%
受取手形及び売掛金	1,880	2,068	187	9.1%	短期借入金 1年以内返済社債・長借	500	500	-	-
商品・製品 & 原材料・貯蔵品	1,465	1,364	△ 100	△7.4%	その他	407	557	149	26.8%
その他	452	500	48	9.6%	固定負債	1,617	1,373	△ 244	△17.8%
固定資産	1,919	3,389	1,470	43.4%	社債	800	700	△ 100	△14.3%
有形固定資産	1,322	1,239	△ 83	△6.7%	長期借入金	450	300	△ 150	△50.0%
無形固定資産	97	202	105	51.9%	退職給付に係る負債	164	172	8	4.8%
投資その他資産	499	1,947	1,448	74.4%	その他	203	201	△ 2	△1.2%
資産合計	9,523	9,574	50	0.5%	純資産合計	6,201	6,225	23	0.4%
					負債純資産合計	9,523	9,574	50	0.5%

*自己資本比率 65.1% 65.0%

キャッシュフローの増減要因

■ 製造原価、販売管理費ともに全社的なコストコントロールを実施中

(単位:百万円)



Ⅱ. 2017年3月期通期計画

~PAC16の導入で確実に利益計上できる体質に~

中国市場の見通し

景気減速を受けた中国政府の下支え策
既存建機の更新需要も到来

為替の前提

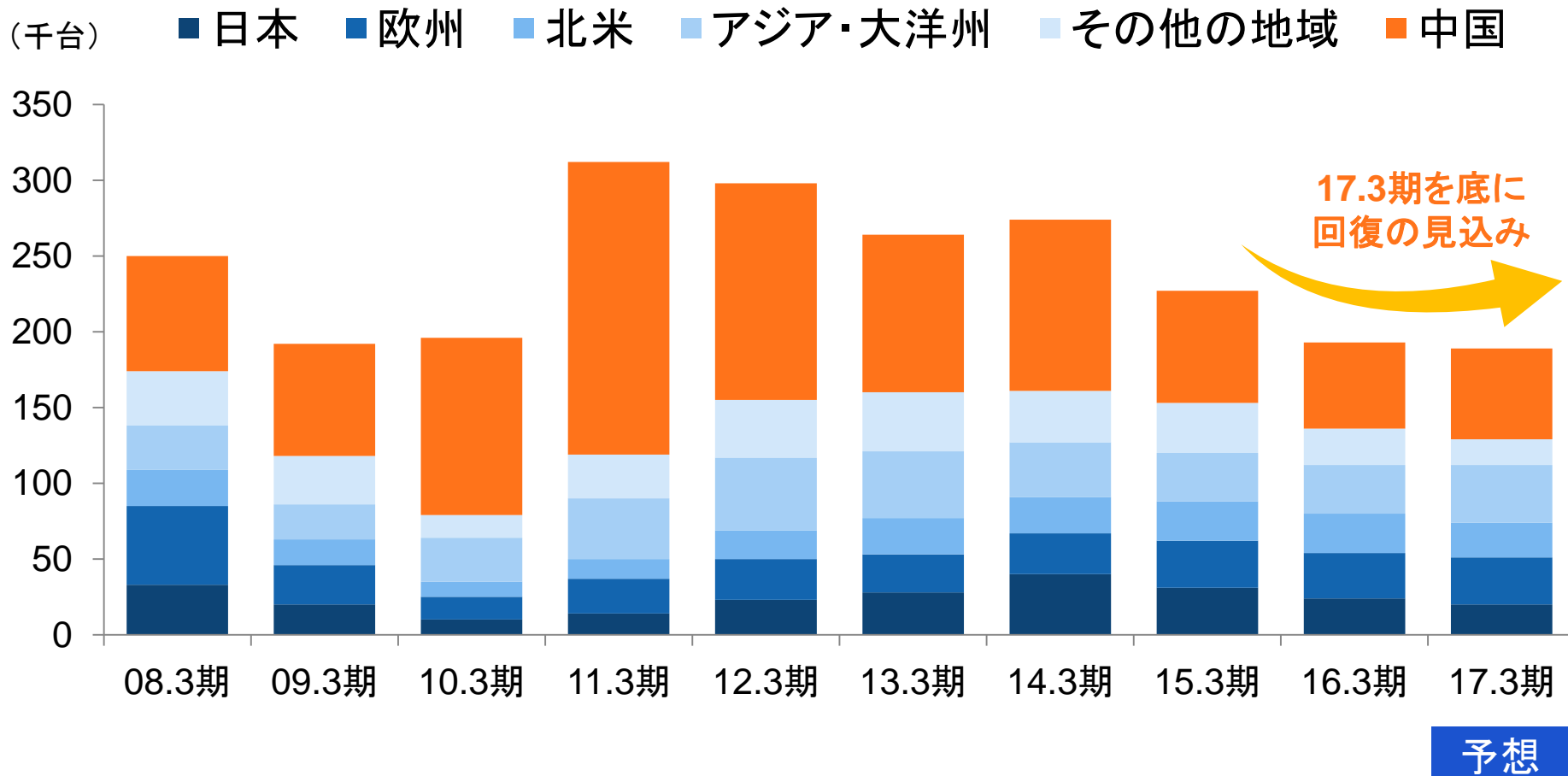
期初予想1ドル120円(5月13日)
修正予想1ドル100円(11月4日)
為替マリーによってリスクをヘッジ

補給品の動向

中国での公共投資下支え策によって
建設機械の稼働時間が増加し、引き合い堅調

事業環境/油圧シヨベル新車需要

■ 中国建機市場は、景気対策による公共工事によって回復基調へ転じる見込み



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

売上拡大策の俯瞰図

		対応方針のKeyword	具体的取り組み	効果検証
建機フィルタ	ライン品	故障予知、ICT技術の提案	ICT技術を取り入れた製品の開発	実機データ収集段階
		効率化の提案	フィルタ単体から油圧システム全体の効率化提案	試験データ収集段階
	補給品	セミナー展開によって非純正品からのシェア奪回	重点エリアを選定し、セミナーを集中的に開催	タイヤインド等、純正率が低いと見込まれるエリアをターゲティング
産業フィルタ		パートナーとの協力体制強化	エンジン用フィルタの開拓	パートナーとの協業進む。既存製品のコスト減へ
プロセスフィルタ		製品シリーズの多様化	電子業界の開拓	ラインナップ拡充に向けた開発をスタート

- 厳しい市場環境の中で、補給品ビジネスのブラッシュアップに尽力

補給部品 販売量

①マクロ環境

稼働台数 × 稼働時間

公共工事や
不動産投資の度合い

②顧客

顧客の補給在庫

各建機メーカーや販売
代理店の業績や方針

③自社の取り組み

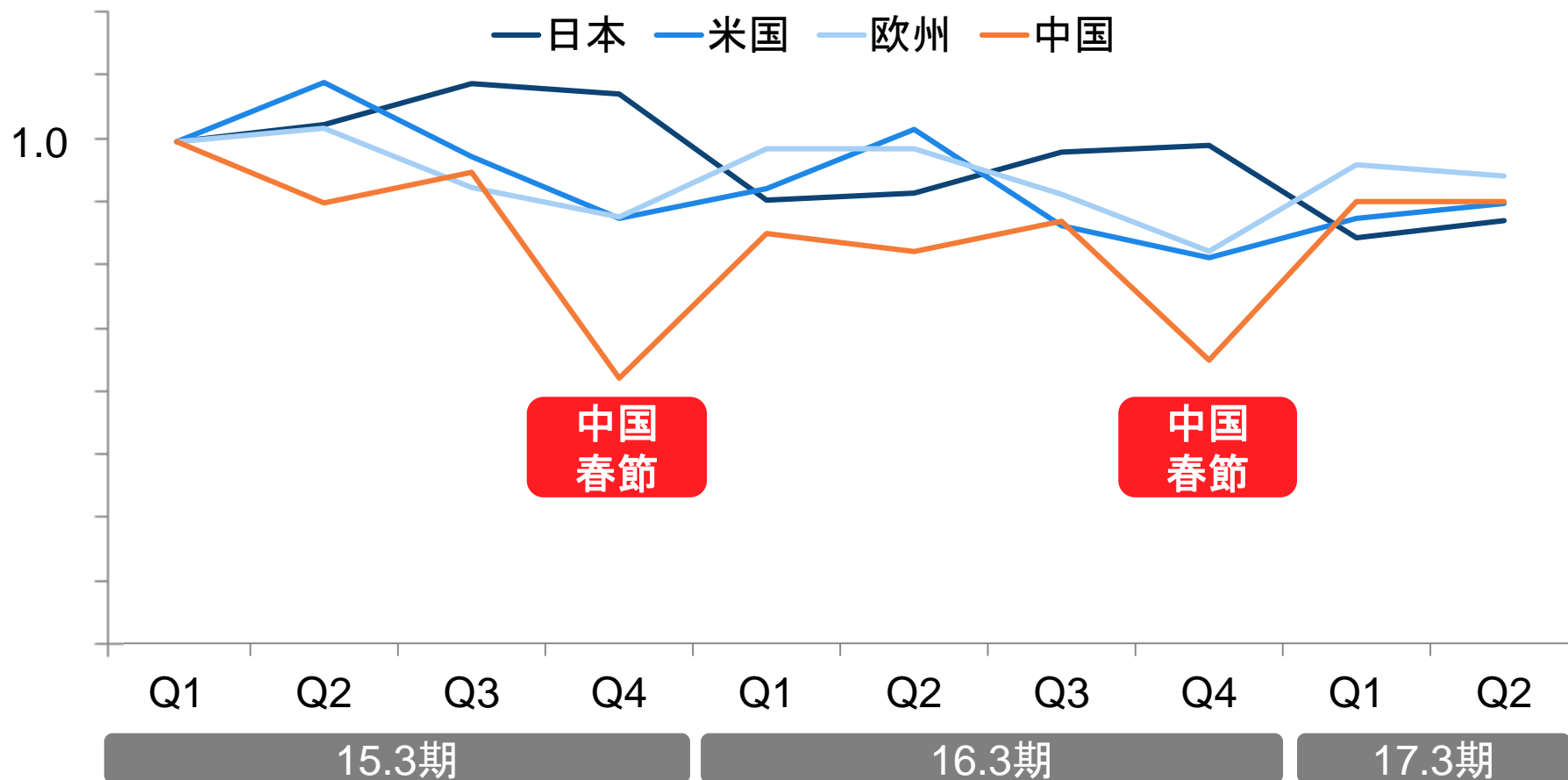
純正率

純正品としての
品質差・認知度

建機稼働時間

■ 17.3期の中国での建機稼働時間は、対前年上期比較で回復

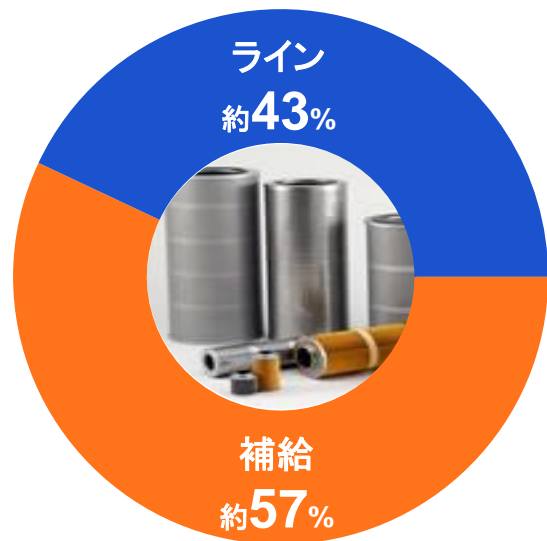
(2014年4~6月の値を1.0として指数化、四半期ごとの推移)



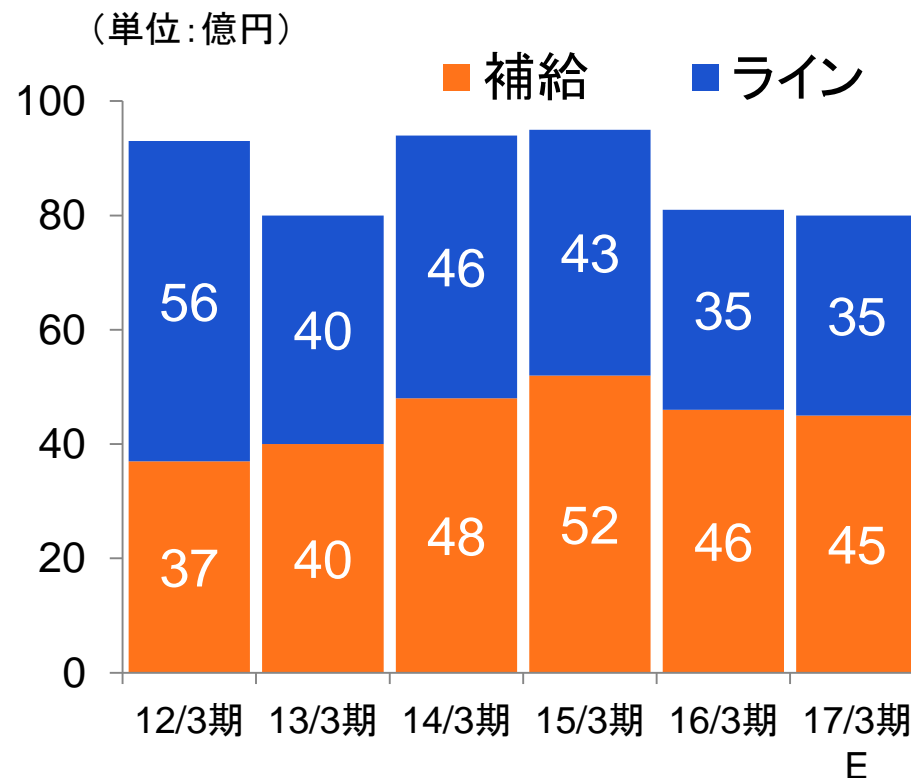
(出所)野村証券アナリストレポートをもとに当社作成

- 補給はストックモデル。建機の稼働台数の蓄積により、安定した需要拡大が見込める

16.3期 建機用フィルタ 売上構成



補給・ラインの売上高推移



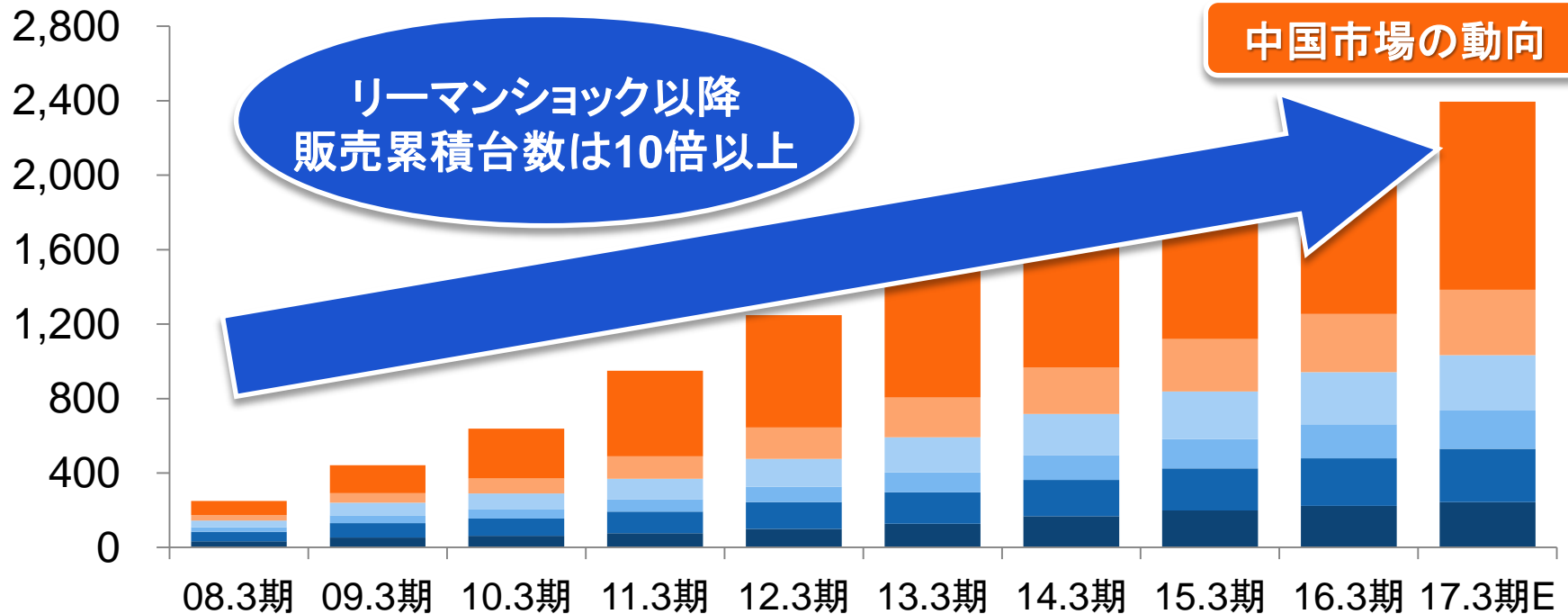
※2012/3期については単体の数値

新車販売累積台数

リーマンショック以降も販売累積台数は増加

(千台)

■ 日本 ■ 欧州 ■ 北米 ■ その他の地域 ■ アジア・大洋州 ■ 中国



中国
4兆元の財政出動

中国
2兆元の財政出動

2017年3月期 通期業績予想

■ 中国建機市場の回復を受け、段階利益を上方修正へ

		16.3期	17.3期	17.3期	前期比増減	
		実績	当初計画 (2016/5/13)	修正計画 (2016/11/4)	金額	%
(単位:百万円)						
売上高		9,458	8,670	9,345	△ 113	△1.2%
営業利益		407	344	780	372	91.5%
当期純利益		183	181	464	280	152.2%
為替 レート	USD	120.1	120.0	100.0	△20.1	△16.7%
	EUR	132.6	130.0	110.0	△22.6	△17.0%

2017年3月期売上予想 製品別

- ライン品は前期比増に転じる計画
- 補給品は中国での春節明けの動向を注視

	16.3期	17.3期	17.3期	前期比増減	
	実績	当初計画 (2016/5/13)	修正計画 (2016/11/4)	金額	%
(単位:百万円)					
建機用フィルタ	8,174	7,403	8,105	△ 68	△0.8%
ライン品	3,553	3,062	3,595	42	1.2%
補給品	4,620	4,340	4,509	△ 110	△2.4%
産業用フィルタ	468	483	459	△ 8	△1.9%
プロセス用フィルタ	815	783	779	△ 35	△4.4%
売上高合計	9,458	8,670	9,345	△ 113	△1.2%

2017年3月期売上上半期別製品推移

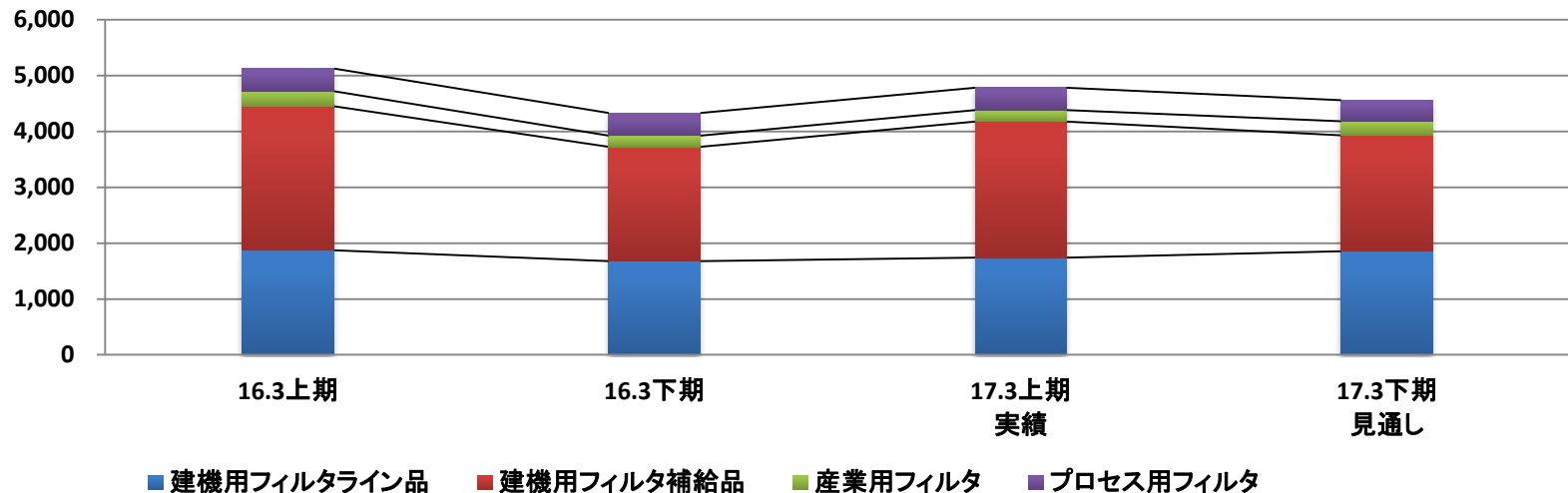
- 下期ライン品需要は堅調を予想
- 補給品は中国市場回復、見極め必要の為、保守的に予算計上

(単位:百万円)

	16.3月期 実績			17.3月期 見通し			17.3対上期 成長率
	16.3上期	16.3下期	16.3合計	17.3上期 実績	17.3下期 見通し	17.3通期 見通し	
建機用フィルタ	4,450	3,723	8,174	4,174	3,930	8,105	-5.8%
ライン品	1,875	1,678	3,553	1,738	1,857	3,595	6.8%
補給品	2,575	2,045	4,620	2,436	2,073	4,509	-14.9%
産業用フィルタ	268	200	468	208	251	459	20.7%
プロセス用フィルタ	408	407	815	400	379	779	-5.3%
合計	5,128	4,330	9,458	4,783	4,559	9,345	-4.7%

売上高:百万円

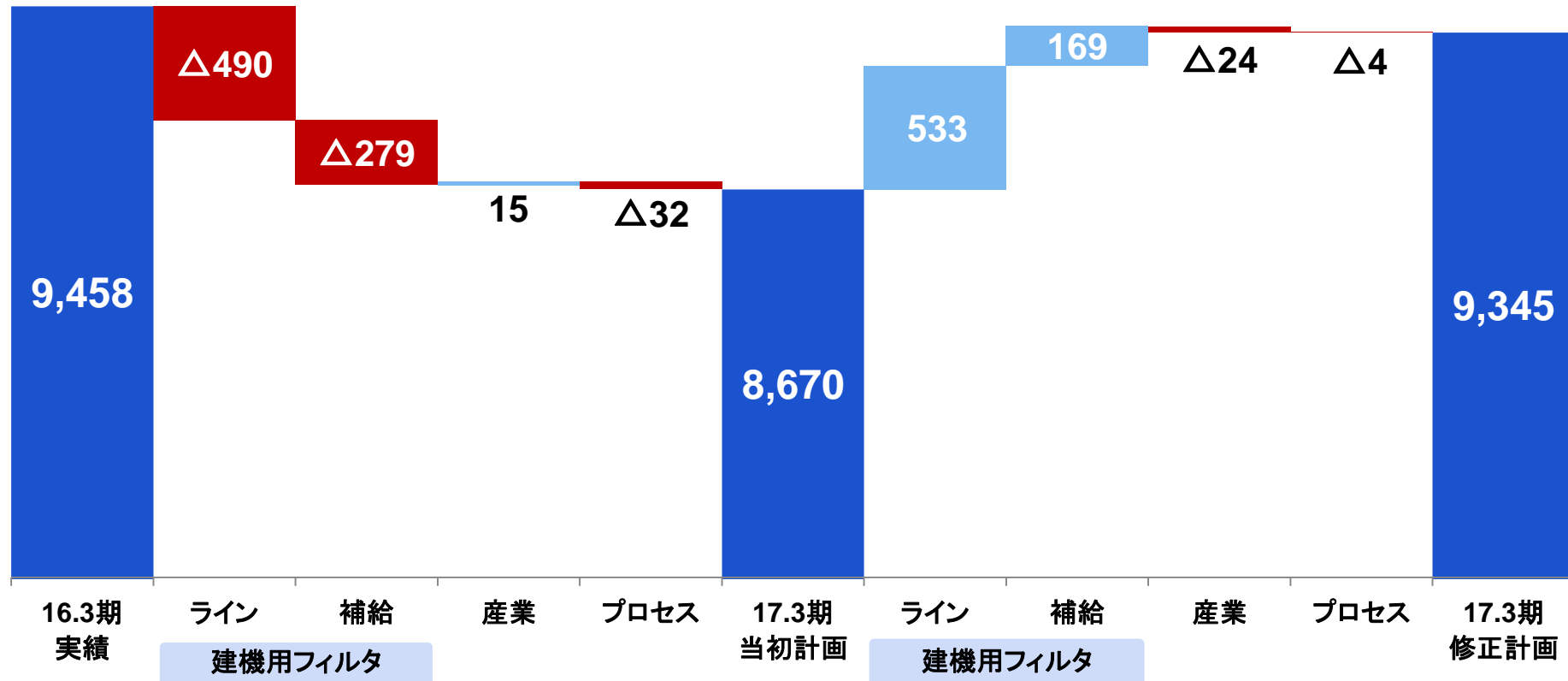
製品別売上高推移



売上高の増減要因

■ まずライン品の回復から。補給品は拡販に取り組む

(単位:百万円)



■ 継続してコストダウン活動を行い、利益体質を強化する

PAC16とは

P

romptly

迅速

A

ctivated

かつ効果的な

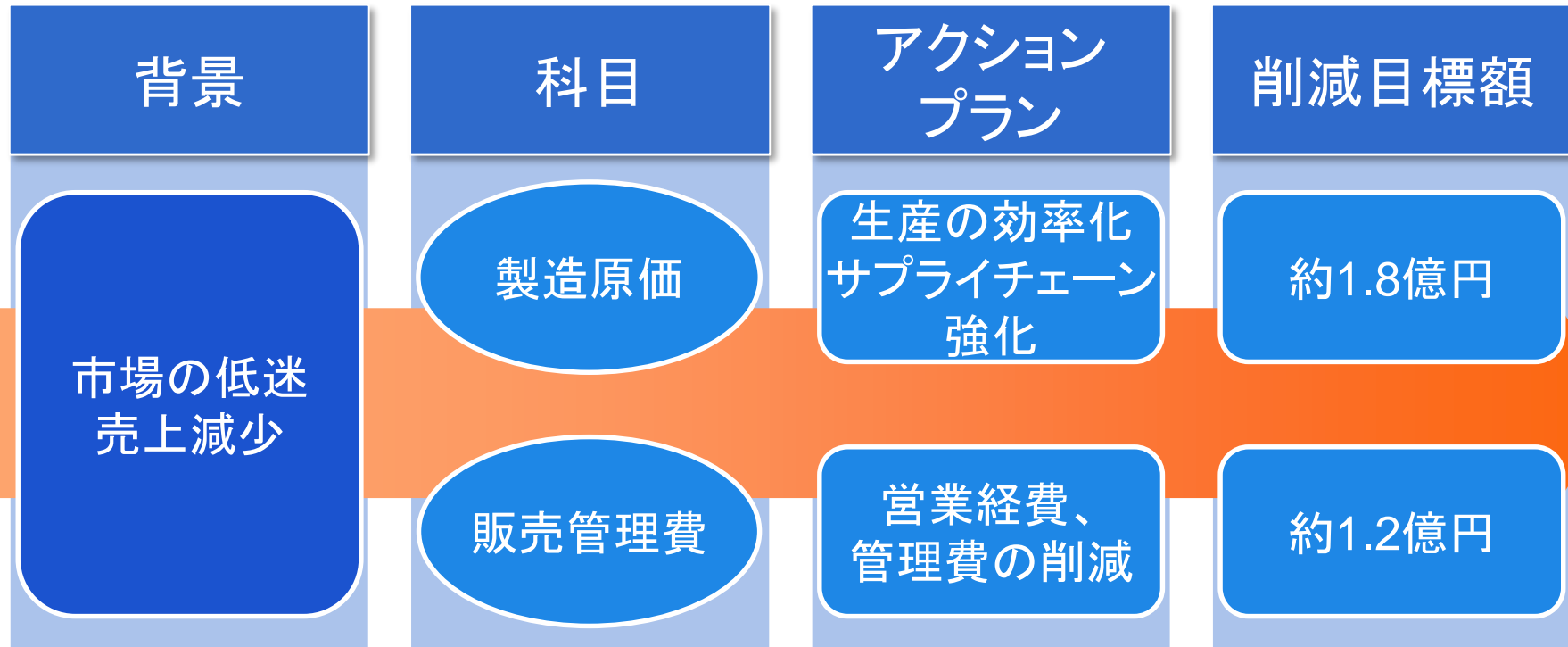
C

ost reduction

コスト削減計画

20

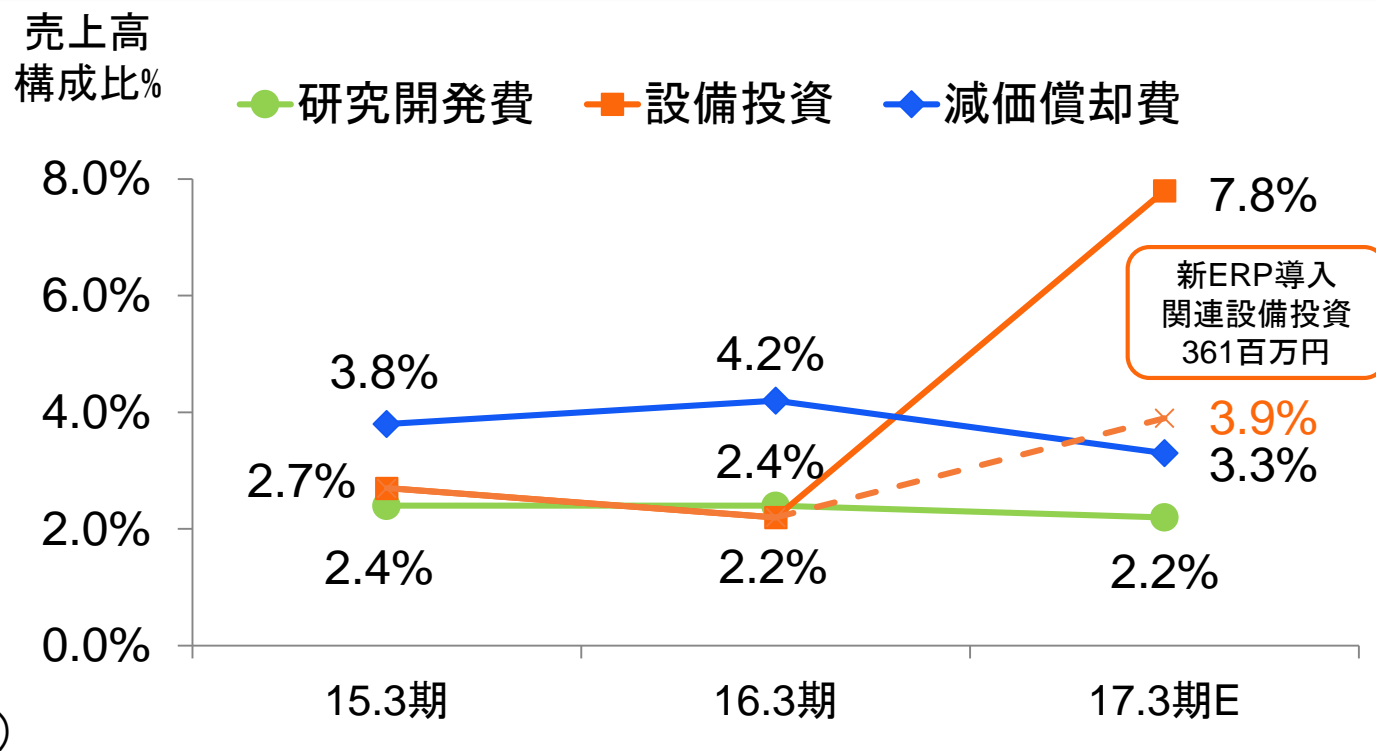
16



※当初計画(2016/5/13)より、削減目標額を減額しています

研究開発費・設備投資・減価償却費の推移

■ 設備投資額は、新ERP導入費用を除けば、ほぼ例年通り



● 研究開発費	254	225	205
■ 設備投資	288	207	733
◆ 減価償却費	407	393	310

株主還元（2016年11月4日リリース）

■ 中間配当5円は継続し、期末配当を5円から7円に修正、年間12円に増配

	15.3期	16.3期	17.3期 (期初)	17.3期 (修正)
1株当たり 配当金	19円 ^{*1}	10円	10円	12円 ^{*2}
DOE	1.9%	2.0%	2.0%	2.4% ^{*2}

※1 2015年9月1日付けで、普通株式1株を2株に分割いたしました。

2015年3月期の1株当たり配当金は**株式分割前の配当金の額**を記載しております。

※2 2017年3月期については、現時点での予定です。

III. 事業ポートフォリオの拡大

~高まる環境対応へのニーズを、
ビジネスチャンスにつなげる~

■ 中国ローカルメーカーへの本格参入は当社初となる試み

三一重機とは

中国最大の総合建機メーカーである
三一集団のグループとして、
油圧ショベル等を製造・販売する企業

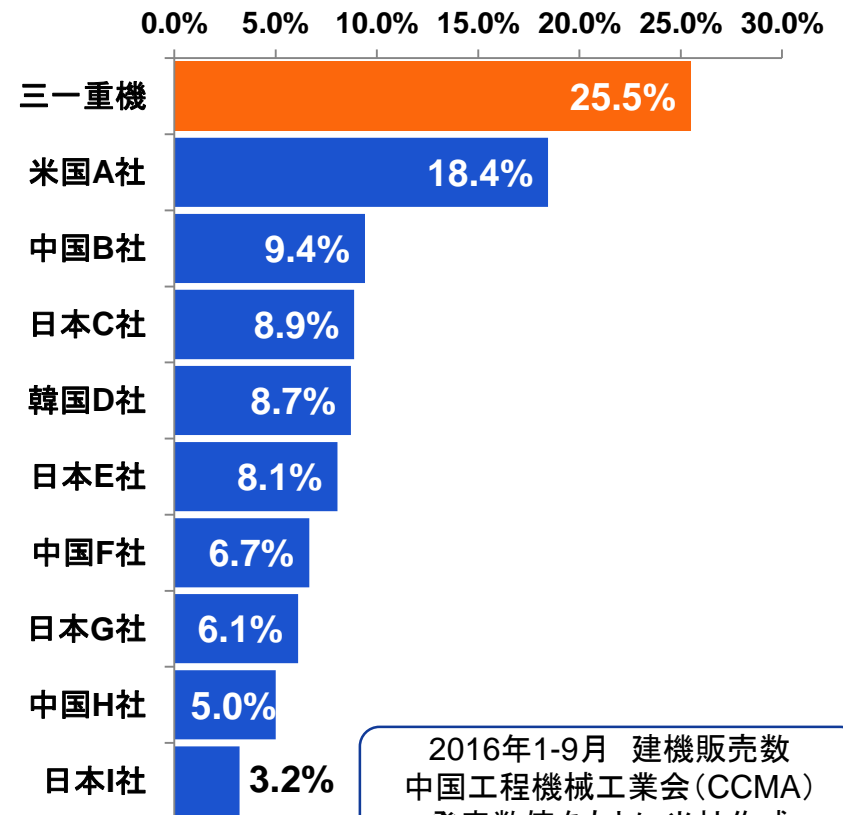
前回

当初計画通り、
4月より商品供給
を開始

今回

10月より
需要が本格化

中国建機販売シェア



2016年1-9月 建機販売数
中国工程机械工業会 (CCMA)
発表数値をもとに当社作成

排ガス規制対応

パリ協定発効で加速する温暖化対策

現実の燃料事情

中国での排ガス規制は、Tier3からTier4へ移行検討中
Tier3,4のエンジンでは完全燃焼のためクリーンな燃料が
求められるが、中国での燃料事情は整っていない状況

顧客の状況

中国でのトップシェアは三一重機
これまでは中国製フィルタを搭載していた

今後の見通し

排ガス規制対応が求められることから、
フィルタ等の機能部品について採用の見直しが進んでいる。
三一重機の当社フィルタ採用はその顕著な例

事業ポートフォリオの拡大

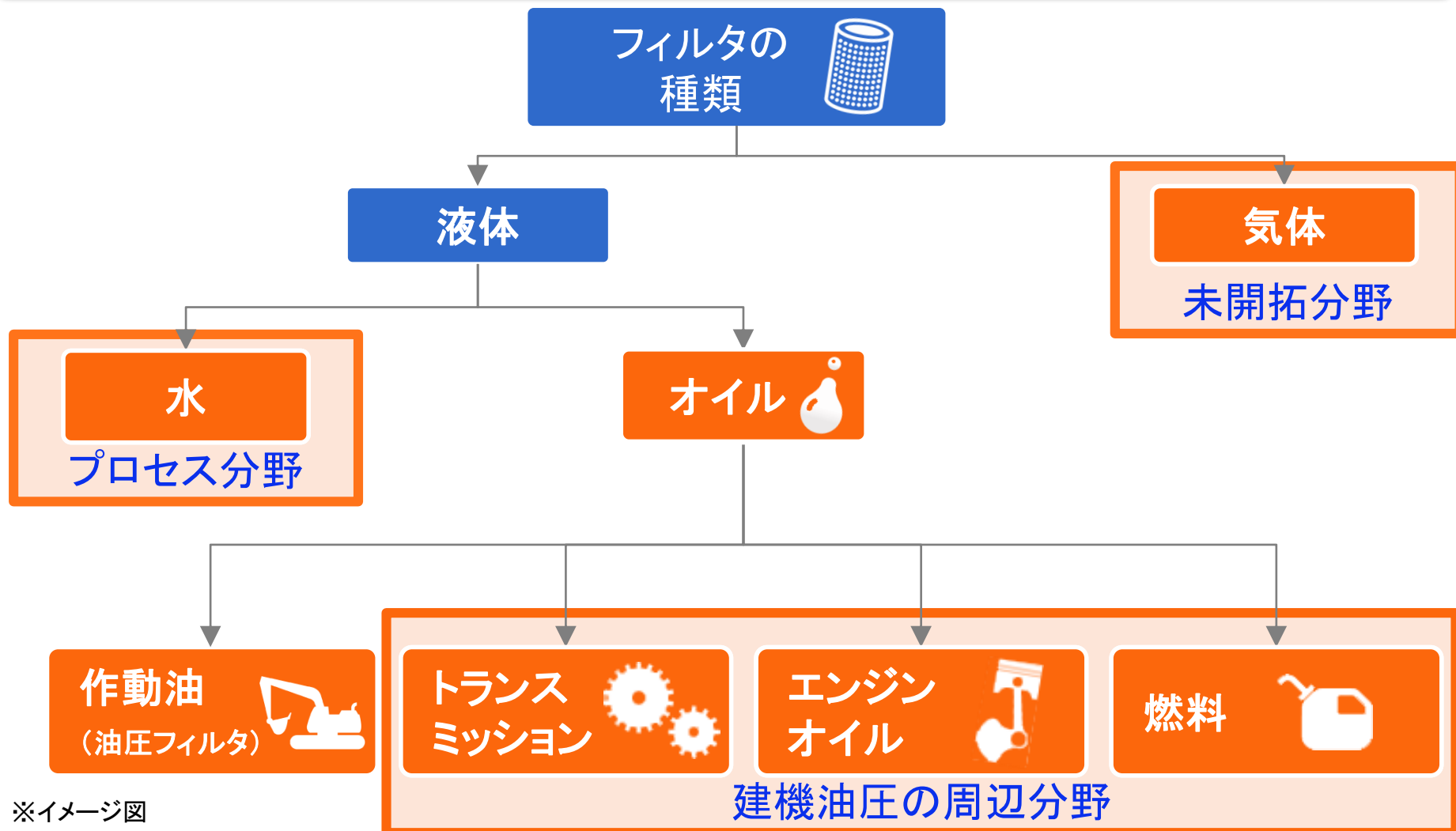
- 周辺分野の深耕と、新しい領域へのチャレンジにより事業ポートフォリオの拡大を図る。

新規顧客



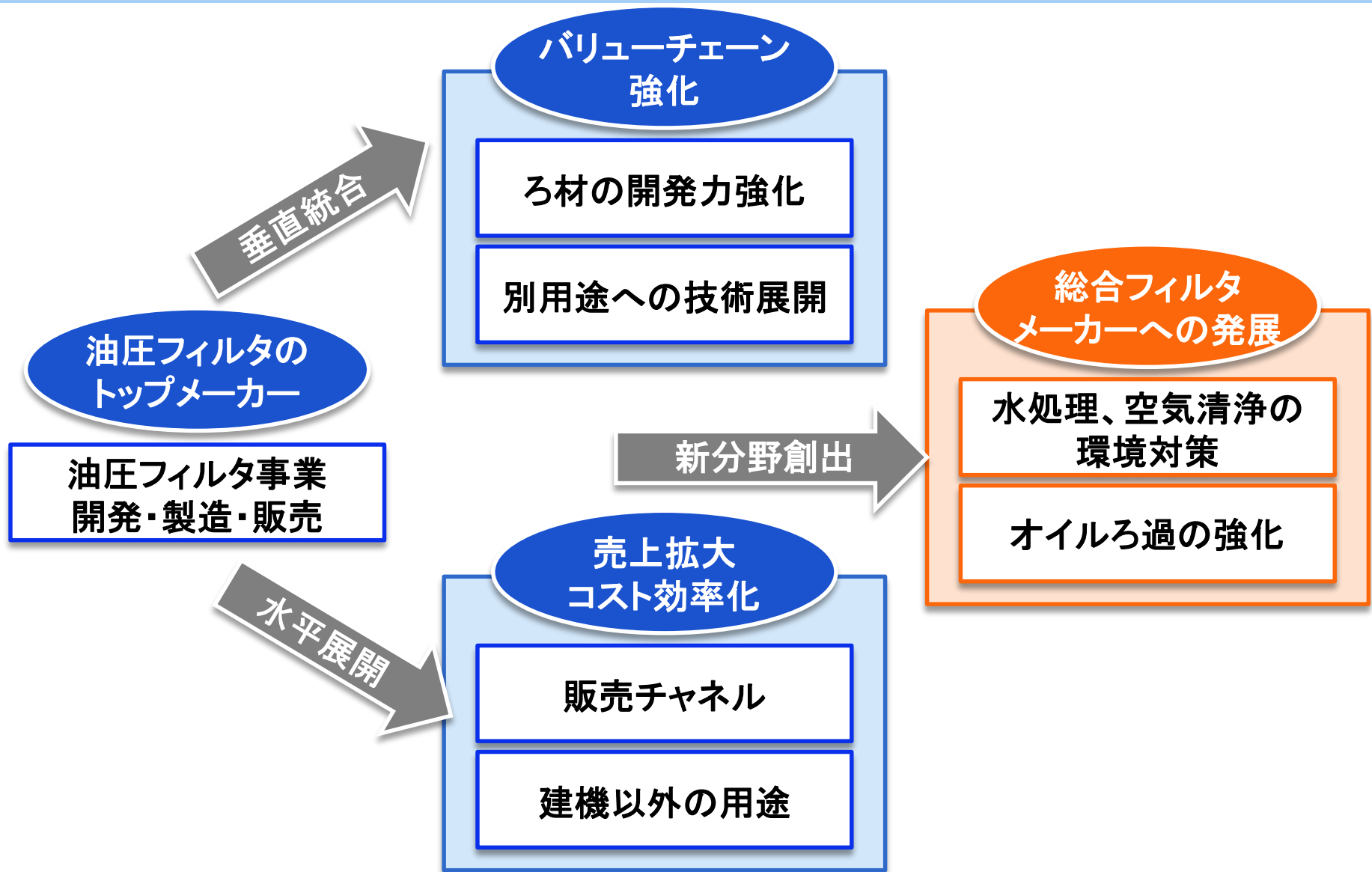
事業ポートフォリオの拡大

- オイル以外の液体や気体分野への事業展開を目指す



※イメージ図

新たなる成長への道筋



17.3期 第2四半期実績

- 中国市場の公共投資回復の兆しのなか、PAC16の推進で大幅増益へ

17.3期 通期計画

- 中国市場の回復に加え、コスト削減効果の継続により、通期計画を上方修正へ
(2016/11/4)

事業ポートフォリオ の拡大

- 既存事業では、排ガス規制強化の影響から、中国ローカル企業からの採用増を見越す
- 成長の軸足を水平展開とともに垂直統合を目指す

参考資料

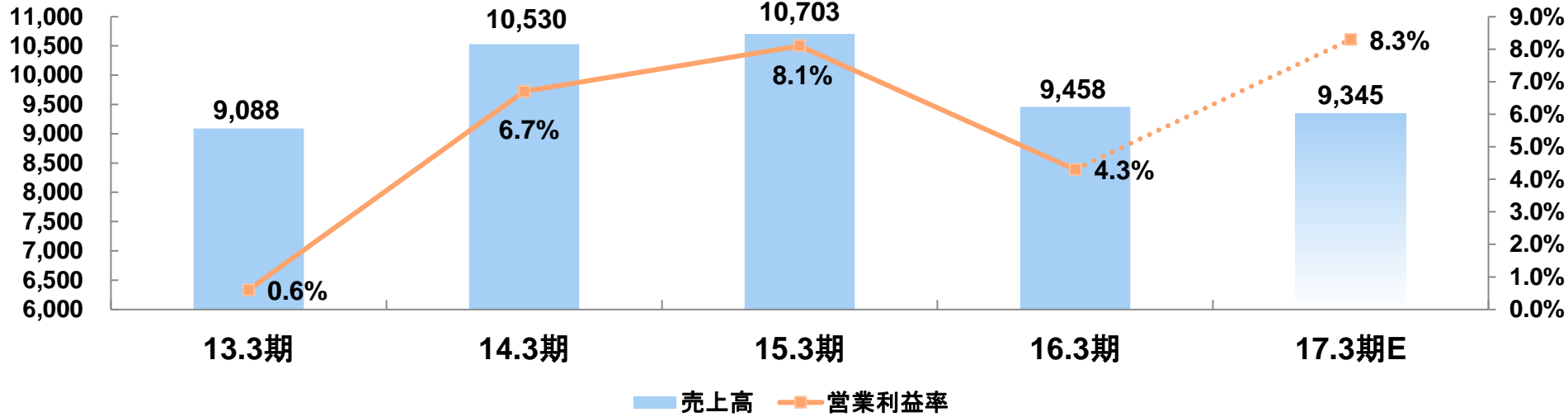
地域別売上高 上期実績（参考）

■（注）当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

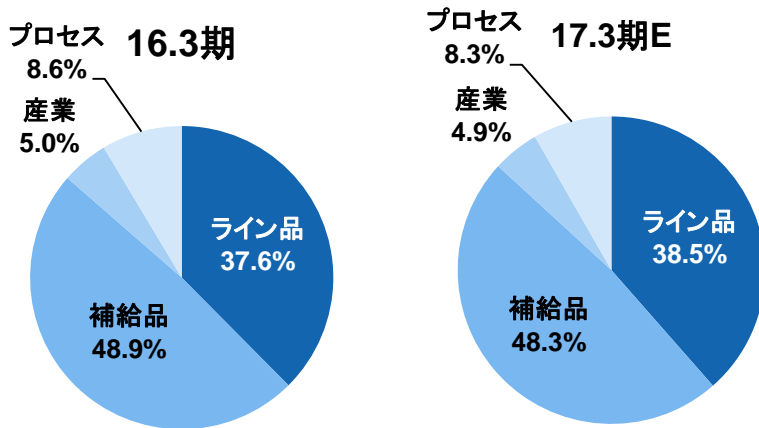
	16.3期2Q 実績		17.3期2Q 実績		前期比増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
（単位：百万円）						
国内	2,727	53.2%	2,553	53.4%	△ 174	△6.4%
北米	969	18.9%	816	17.1%	△ 153	△15.8%
中国	222	4.3%	337	7.1%	114	51.6%
アジア	531	10.4%	514	10.8%	△ 16	△3.1%
欧州	592	11.5%	531	11.1%	△ 60	△10.3%
その他（中東他）	84	1.7%	30	0.6%	△ 54	△64.5%
売上高合計	5,128	100.0%	4,783	100.0%	△ 344	△6.7%

売上高・営業利益率推移

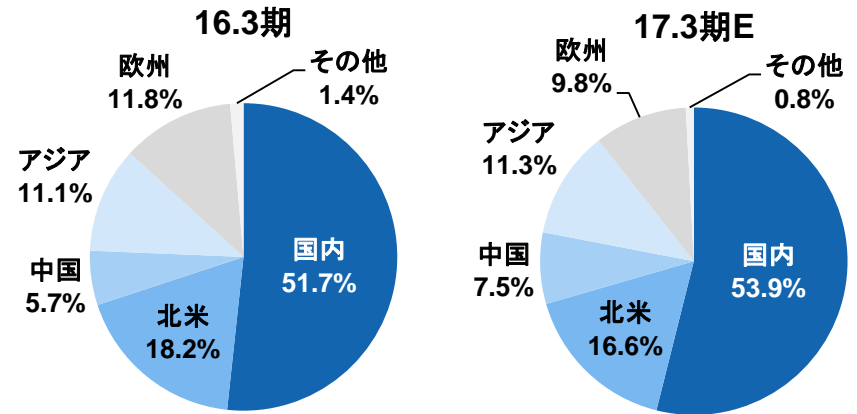
(百万円)



製品別売上高

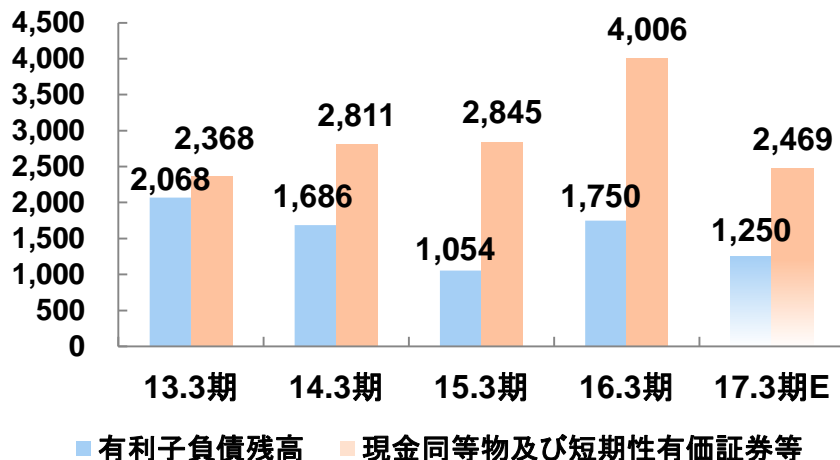


地域別売上高

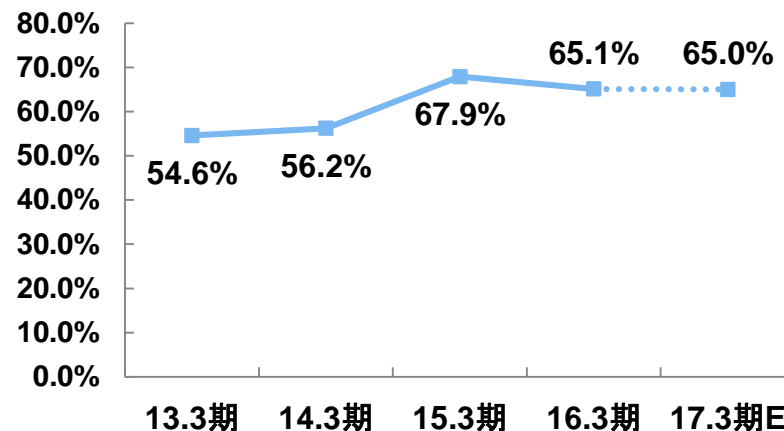


有利子負債・現金同等物及び短期性有価証券等残高

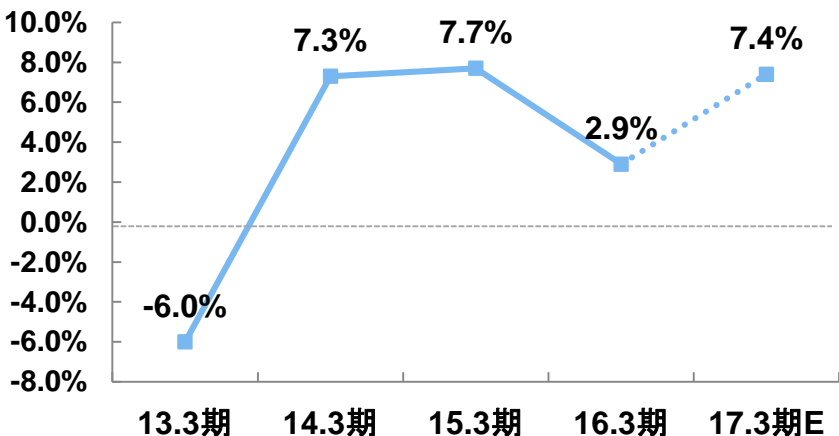
(百万円)



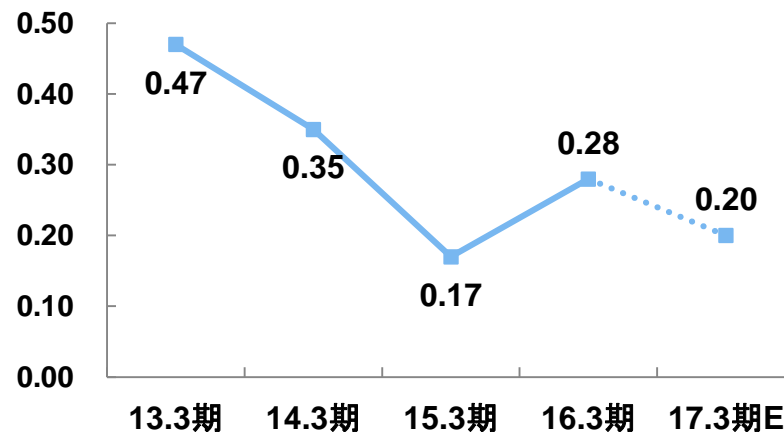
株主資本比率



ROE



D/Eレシオ



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは
ヤマシンフィルタ株式会社 経営企画室まで

TEL (045-680-1680)

E-mail: ir@yamashin-filter.co.jp